

工種別施工計画書作成の手引き

平成28年3月

山梨県県土整備部営繕課

はじめに

平成27年3月、山梨県県土整備部営繕課「総合施工計画書作成の手引き書」を策定した。

このたび、請負者が工種別施工計画書を作成する際、施工計画や品質計画の作成作業が円滑に行えるよう標準的な記載事項を例示した「工種別施工計画書作成の手引き書」を策定した。

工種別施工計画書は、標準仕様書の第1章第2節1.2.2(b)に、「品質計画、一工程の施工の確認及び施工の具体的な計画を定めた工種別の施工計画書を、当該工事の施工に先立ち作成し、監督職員に提出する。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りでない。」と規定している。

また、同(c)に「(b)の施工計画書のうち、品質計画に係る部分については、監督職員の承諾を受ける。」と規定している。

この他、同(d)には「施工計画書の内容を変更する必要がある場合は、監督職員に報告するとともに、施工等に支障がないよう適切な措置を講ずる。」と規定している

工種別施工計画書は、工事着手前に、総合施工計画書に基づいて、工種別の施工計画を定めたものであり、施工要領書と呼ばれるものを含む。原則として、設計図書と相違があってはならない。

本手引きでは、記載例として建築工事内容は「型枠工事」、「鉄筋工事」、「コンクリート工事」、機械設備工事内容は「配管工事」、電気設備工事内容は「配管・配線工事」をそれぞれ示しているが、その他の工種についても同様な記載内容が必要であると認識していただきたい。

また、工種別施工計画書作成にあたり記載事項の「確認欄」も活用していただきたい。

I 工種別施工計画書作成の留意点

(1) 工種別施工計画書作成には以下の事項を特に留意すること。

- ① 工種施工計画書のうち、品質計画に係る部分については、監督員の承諾を受ける。
- ② どの工事にも共通的に利用できるように便宜的に作成されたものにならないよう、当該工事の特性を反映したものとすること。
- ③ 原則として、工種別施工計画書は総合施工計画書と別冊とするが、小規模工事等で工種が少ない場合は総合施工計画書に含めて提出してもよい。
- ④ 工種別施工計画書は、当該工事の主要工事と考えられる工種のみ作成すればよい。
- ⑤ 工種別施工計画書には、施工要領、品質管理及び施工体制について具体的に記載する。
- ⑥ 追加工事や施工方法等の変更により施工計画書に変更が生じた場合は、変更施工計画書を提出する。なお、変更内容が軽微な場合は、変更箇所だけを工事打合簿に添付して監督員に提出してもよい。
- ⑦ 標準仕様書に記載されている「～してもよい」や「～は特記による」という表現は、施工方法が明確でないため、工事別施工計画書には具体的な施工方法を明記すること。

II 工種別施工計画書の記載内容（総合施工計画書作成の手引き抜粋）

- ・ 使用資材メーカーリストの提出
- ・ 主要材料の規格・品質証明書
- ・ 品質管理基準（品質管理基準値、品質管理方法等）の設定
- ・ 出来形管理基準（出来形管理基準値、測定位置、測定頻度、出来形管理図の作成等）の設定
- ・ 材料納入簿により数量管理する項目
- ・ 品質管理基準、出来形管理基準による自主検査記録（チェックリスト）の作成
- ・ 施工に関して試験を要するものの試験結果報告書を提出する項目
- ・ 各種保証書を提出する項目
- ・ 製作図・承諾図の作成・提出

鉄筋工事

区 分		記 載 事 項	確認	
施	一般事項	適用範囲、適用図書、関係法規、参考図書、工事打合簿等		
	工事概要	工事番号、工事名、工事場所、発注者、請負者等		
	工程表	施工図作成時期、材料検査の時期、配筋検査の時期、 検査の種類と時期、関連工事との調整		
工	品 質 計 画	現場組織	施工業者名、安全衛生組織、現場施工体制図、 技能士(鉄筋組立)	
		材料	使用材料名、規格、種類、使用区分、製造所名、保管方法、 材料の品質確認方法	
		施工	仕上げの程度、性能、精度の目標	
		報告	材料搬入報告、施工報告書の項目・内容	
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、 各検査責任者と合否判定基準、 監督員検査の方法(時期・項目)	
		安全衛生対策	作業動線計画、墜落・転倒・突き刺さり・つまずき等の防止措置	
画	工法(施工要領)	鉄筋の加工場所・鉄筋加工設備(切断・曲げ)、加工形状、 鉄筋の保存方法、鉄筋位置の修正、※継手工法、 継手位置・長さ、定着長さ・方法、異形鉄筋のフック箇所、 開口部・貫通孔等の補強要領、特殊補強要領、 鉄筋のかぶり厚さ及びスペーサーの材質・形状・サイズ・ 使用部位・間隔、養生方法(組立後の乱れ防止策)、 台直しの方法、関連工事との取合い		

※ 継手工法でガス圧接、機械式継手を使用する場合は
別途、継手の施工計画書を提出する。

鉄筋工事自主検査表 (2)			工区	階
施工完了 (鉄筋組立完了) 自主検査			検査日	検査者
No.	検査項目	合否の判断基準	合否の判定	不合格時の処置
共通				
1	定着長さ	・設計・設計図書・仕様書・配筋基準図通り	合格 不合格	
2	継手長さ	・設計・設計図書・仕様書・配筋基準図通り	合格 不合格	
3	継手位置	・設計・設計図書・仕様書・配筋基準図通り	合格 不合格	
4	鉄筋相互の間隔	・設計・設計図書・仕様書・配筋基準図通り	合格 不合格	
5	鉄筋の被り	・設計・設計図書・仕様書・配筋基準図通り	合格 不合格	
基礎				
1	材質の確認	・発注書とミルシート、ロールマークが合致		ミルシート、ロールマークの写真
2	主筋の状況	・径、配列 (X、Y方向)、本数、フック ・設計図書・仕様書・配筋基準図通り	合格 不合格	
3	基礎、底盤、フープ、スターラップ	・径、ピッチ、フック、溶接箇所、かぶり厚さ ・設計図書・仕様書・配筋基準図通り	合格 不合格	
4	スペーサの取付	・設計かぶり寸法+ふかし寸法のものを使用していること	合格 不合格	
5	スラブ、土間	・径、本数、ピッチ、定着と継ぎ手長さ、端部、かぶり厚さ ・設計図書・仕様書・配筋基準図通り	合格 不合格	
6	基礎梁貫通部の補強筋 スラブ、土間開口部	・計画通りに配筋されている ・計画通りに配筋されている	合格 不合格 合格 不合格	
7	壁差筋	・径、ピッチ、定着長さ、端部、交差部、開口補強 ・計画通りに配筋されている	合格 不合格 合格 不合格	
柱				
1	主筋の状況	・径、配列 (X、Y方向)、本数が ・設計図書・仕様書・配筋基準図通り	合格 不合格	
2	帯筋の状況	・径、寸法が設計かぶり厚さを考慮した加工寸法であること ・爪の曲がり設計図書通りであること ・移動しないよう結束されていること	合格 不合格 合格 不合格 合格 不合格	
3	スペーサの取付	・設計かぶり寸法+ふかし寸法のものを使用していること ・1辺につき2段、各段2ヵ所取りつけてあること	合格 不合格 合格 不合格	
壁				
1	縦筋、横筋の状況	・径、ピッチ、定着長さ、端部が設計図書通りであること	合格 不合格	
2	開口部補強	・径、本数、長さ、位置が設計図書通りであること	合格 不合格	
3	誘発目地部処理	・径、間隔が設計図書通りであること	合格 不合格	
4	幅止め筋	・設計図書・仕様書・配筋基準図通り	合格 不合格	
5	スペーサ	・設計かぶり寸法+ふかし寸法のものを使用していること ・使用個数は適性か	合格 不合格 合格 不合格	

コンクリート工事

区分		記載事項	確認	
施	一般事項	適用範囲、適用図書、関係法規、参考図書、工事打合簿等		
	工事概要	工事番号、工事名、工事場所、発注者、請負者等		
	工程表	型枠組立・コンクリート打込み・養生期間及び支柱取外しの時期、 配合計画書の提出時期、検査の種類と時期		
工	品	製造工場	製造業者名、製造工場の管理組織、JIS表示許可、 製造設備及び能力、品質管理基準、運搬時間	
		現場組織	施工業者名、安全衛生組織、現場施工体制図、 技能士(コンクリート圧送、左官) 作業の管理組織(打設責任者名、ポンプ施工業者名、検査責任者)	
	質	材料 (計画書)	コンクリートの種類、コンクリートの種別、設計基準強度(F_c)、 構造体コンクリート強度、調合管理強度、調合強度、 構造体強度補正值(S)、予想平均気温、暑中の S の扱い、 スランプ、単位水量、単位セメント量、水セメント比、空気量、 塩化物量(塩化物イオン量)、アルカリ総量、骨材の種類・ 品質(絶乾密度・吸水率・単位容積重量・塩分含有量)・比重・ 粒度分布・採取場所・塩分含有量、粗骨材の最大寸法、 セメントの種類・規格・製造所名、水の種類、 混和材料の種類・規格・製造所名	
			施工	仕上げの程度、性能、精度の目標
	計	養生	打込み後の養生方法(暑中、寒中、降雨、降雪)、湿潤養生、 振動・外力からの保護、養生期間	
		検査・試験	供試体の採取(採取本数、採取場所、養生方法)、 受入検査の方法、試験機関の確認、監督員検査の方法(時期・項目)	
		不適合品の 管理	異状を生じたコンクリートの処理方法、 部材位置・断面寸法の補修方法、じゃんか、空洞、 コールドジョイント、有害なひび割れ及びたわみの補修方法	
	画	報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容	
		安全環境対策	災害防止対策、周辺環境の保全(騒音・振動・ 大気汚染・水質汚濁・道路の汚れ・過積載等)	
		書	工法(施工要領)	打込み区画、打込み量、打込み方法、打込み順序、打止め方法、 作業動線、輸送管の大きさ、配置及び支持方法 (フレキシブルホースの長さ、鉄筋・型枠の保護・清掃)
現場内運搬用機器(ポンプ・バケット・シュート・手押し車)の選定、 コンクリートポンプ車の圧送能力及び配置、 生コン車の配車及び待機方法、作業員の配置、 コンクリートの締固め方法、上面の仕上げの方法(タンピング方法)				
		打継ぎ位置、打継ぎ方法、 打継ぎ面の処理(外部及び水回りの打継ぎ)		

自主検査表の作成例であり、現場に併せて適宜修正をすること。

コンクリート工事自主検査表		工区	階
設計図書自主検査		検査日	検査者
No.	検査項目	合否の判断基準	合否の判定
1	強度及び調合条件	設計図書、設計基準強度以上	合格 不合格
2	生コン業者の選定	JIS表示許可、運搬時間、品質管理状況	合格 不合格
3	試し練り	コンクリートの品質確認、配合計画書の内容検討	合格 不合格
4	敷地条件、近隣状況の確認	予定数量が打設できる計画であること	合格 不合格
施工前自主検査		検査日	検査者
No.	検査項目	合否の判断基準	合否の判定
1	打設場所、数量、仕様の確認	打設できる状況にあること	合格 不合格
2	ポンプ車の配置	第3者災害、騒音対策、受け取り検査等	合格 不合格
3	打設順序	コールドジョイントの防止、打ち足し時間間隔	合格 不合格
4	打設前の準備確認	・ポンプ車の台数 ・コンクリート工事の人員配置	合格 不合格
		・振動期の台数	合格 不合格
		・コンクリート運搬車の配車	合格 不合格
5	事前清掃	水洗い、型枠の水湿し	合格 不合格
施工時自主検査		検査日	検査者
No.	検査項目	合否の判断基準	合否の判定
1	締め固め バイブレーター	挿入角度・間隔は良いか	合格 不合格
2	叩き	人員配置(開口部周り・鉄筋密集部)	合格 不合格
3	突付き	バイブレーターの入らない部分の替わり	合格 不合格
4	スラブタンピング	荒均し状況は良いか	合格 不合格
5	豆板の対策	できやすい部位の周知徹底、打設後確認	合格 不合格
6	打ち込み時間	外気温25℃未満・120分以内	合格 不合格
		外気温25℃以上・90分以内	合格 不合格
7	打設要領	柱、外壁、梁、スラブの打設要領の徹底	合格 不合格
施工完了自主検査		検査日	検査者
No.	検査項目	合否の判断基準	合否の判定
1	片付	残コンクリートの処理	合格 不合格
		鉄筋付着コンクリートの洗い	合格 不合格
		型枠清掃	合格 不合格
2	養生	散水養生(打設面及び外壁面)	合格 不合格
		耐衝撃養生(早期材齢で振動・外力を受けていない)	合格 不合格
		保温養生(外気温-2℃以下になるとき)	合格 不合格
3	豆板(じゃんか)の補修要領	豆板、コールドジョイントができたとき	合格 不合格

型枠工事

区 分		記 載 事 項	確 認	
施 工 計 画 書	一般事項	適用範囲、適用図書、関係法規、参考図書、工事打合簿等		
	工事概要	工事番号、工事名、工事場所、発注者、請負者等		
	工程表	施工図作成時期、型枠組立時期、取外し時期、 コンクリート打込み時期、検査の種類と時期		
	品 質	現場組織	施工業者名、現場施工体制図(施工業者名、担当区分及び担当者、 下請業者名、下請代表者名、下請主任技術者)、作業主任者、 技能士(型枠施工)	
		材料	せき板の材料・種類、支保工の材料・種類、締付け金物の種類、 型枠緊張材の種別・使用箇所(コーン・ボルト式)、 はく離剤の有無・種類、 インサートの材質・形状、スリーブ材・打込み断熱材の仕様、 材料の品質確認方法	
	計 画	施工	仕上げの程度、性能、精度の目標(建入れ精度)	
		検査・試験	受入検査の方法、工程内検査の方法、 各検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法(時期・項目)	
		報告	材料搬入報告・施工報告書の項目・内容	
	書	安全環境対策	型枠強度の安全検討、墜落・転倒防止対策、廃材の適正処理、 支保工の点検	
		工法(施工要領)	型枠構法の種類、せき板・支柱の残存期間、施工上の注意点 ルーフトレンの打込み方法、清掃方法、型枠の転用計画	
施 工 時	コンクリート躯体図 (工程表に沿って随 時提出)	建物の基準線と各部材の位置、柱・梁・壁など各部材の 符号及び形状・寸法、開口部・貫通部・埋込み金物の位置、 型枠の使用区分、コーンの使用箇所、床こて仕上げ高さ、 打込み断熱材の有無、増打ち、ひび割れ誘発目地、 仕上目地寸法・形状、打継目地位置、インサート割付け、 設備工事等関連工事との調整		

自主検査表の作成例であり、現場に併せて適宜修正をすること。

型枠工事自主検査表			工区	階
設計図書自主検査			検査日	検査者
No.	検査項目	合否の判断基準	合否の判定	不合格時の処置
1	施工図	施工図のチェック 事前検討時の懸案事項がフォローされている 施工方法との整合性 開口部の納まりと寸法 誘発目地の位置、寸法 打継ぎ位置	合格 不合格 合格 不合格 合格 不合格 合格 不合格 合格 不合格	
2	強度計算書	各部位の強度、たわみ	合格 不合格	
施工前自主検査			検査日	検査者
No.	検査項目	合否の判断基準	合否の判定	不合格時の処置
1	親墨の確認	管理値	合格 不合格	
2	子墨と鉄筋の確認	鉄筋の所定被り厚さ確保 (管理値は設計図書、基準書、協議等による)	合格 不合格	
3	型枠材の品質	著しい汚れ、破損、変形がないこと	合格 不合格	
	工程管理、安全管理、 材料管理、			
施工時自主検査			検査日	検査者
No.	検査項目	合否の判断基準	合否の判定	不合格時の処置
1	目地位置	所定の位置に入っている	合格 不合格	
2	開口部	所定の位置に入っている	合格 不合格	
施工完了(型枠組立完了)自主検査			検査日	検査者
No.	検査項目	合否の判断基準	合否の判定	不合格時の処置
1	柱、壁型枠建入精度	倒れ(管理値)	合格 不合格	
2	外壁型枠頂部の通り精度	通り(管理値)	合格 不合格	
3	階高寸法	基本レベルと各階床レベルの差(管理値)	合格 不合格	
4	建物コーナー型枠建入精度	平面位置及び倒れ(管理値)	合格 不合格	
5	鉄筋の被り厚さ	鉄筋の所定被り厚さ確保 (管理値は設計図書、基準書、協議等による)	合格 不合格 合格 不合格	
6	スラブ引き間隔	間隔(管理値)	合格 不合格	
7	壁控え支保工間隔	間隔(管理値)	合格 不合格	
8	型枠緊結状況	押引き材のゆるみ、締付金物の配置	合格 不合格	
9	支保工	ゆるみ、変形等 計画図との合致	合格 不合格 合格 不合格	
10	面木・目地棒	計画図との合致	合格 不合格	
11	各種配管、BOX、埋め込み金物	位置・数量、計画図との合致	合格 不合格	
12	木片、おがくず、泥等	除去できていること	合格 不合格	
13	CON打設中の変形防止	立会いによる異状の監視	合格 不合格	
14	型枠の取り外し	存置期間(管理値)	合格 不合格	
15	梁下、スラブの支柱取り外し	存置期間(管理値)	合格 不合格	

機械設備工事(配管)

区 分		記 載 事 項	確認	
施 工 計 画 書	一般事項 ※	適用範囲、適用図書、関係法規、参考図書、工事打合簿等		
	工事概要	工事番号、工事名、工事場所、発注者、請負者等		
	工程表 ※	施工図作成時期、工区毎の施工時期、検査時期		
	品	現場組織 ※	施工業者(主任技術者・担当者)名、作業の管理組織、作業主任者、技術者(技能士、施工管理技術者等)、消防設備士等	
		配管材料等	配管・継手・接合材・配管付属品・計器等の規格、使用区分	
	質	施工	接合方法(ねじ、フランジ、溶接等)、勾配、吊り支持、埋設配管 防食措置、貫通部の処理等の性能・精度の目標	
		試験	試験時期、試験方法(満水・水圧・気密等)、試験機器、 合否判定基準(管理値)	
	計	検 査	材料・機材の受入検査・施工管理検査の方法、各検査責任者と合否 判定基準、監督員検査の方法(時期・項目)、測定機器の校正方法	
		報 告	材料搬入・施工報告書の項目・内容、試験成績書	
	画	安全対策	ピット内作業時の酸素濃度測定、配管加工機器類の取扱い等	
書	工法(施工要領)	材料等の運搬方法・保管方法・養生方法、発生材処理方法、 配管の接合方法(ねじ・フランジ・溶接及び異種管接合等) 建物導入部の変位吸収配管方法(スリークッション、フレキ等) 配管の振れ止め支持方法(耐震・防振)、 機器廻りの配管方法 防火・防煙区画等の貫通部処理方法、防食方法 埋設配管、排水桝の施工方法(掘削深度により土止め等) 既存施設部分・工事目的物の施工済み部分の養生方法 使用機械工具の確認		
施 工 図 等	配管図	設計図書との整合性、他工事との取合い(ダクト・電気工事・建築工事他) 作業・保守点検空間の確保(継手・ボルト・ナット等の締付、バルブ・ ストレーナの保守)、防火・防煙区画との整合性、 支持方法・勾配の確保		

※の項目については総合施工計画書に記載の場合、省略可

配管工事 自主検査表		工区	階		
屋内排水配管工事 自主検査		検査日	検査者		
No.	検査項目	合否の判断基準	合否の判定	不合格時の処置	
1	材料の確認				
	① 配管類の確認	目視(施工計画書との整合)	合格 不合格		
	② 継手類の確認	目視(施工計画書との整合)	合格 不合格		
	③ 接合材類の確認	目視(施工計画書との整合)	合格 不合格		
	④ 消耗品類の確認	目視(施工計画書との整合)	合格 不合格		
2	管加工、接合方法等				
	① 切断方法の確認	目視	合格 不合格		
	② 切断面の仕上り状況	目視(切断面の角度、バリ取りの状況)	合格 不合格		
	③ 管口の養生	目視	合格 不合格		
3	管の材質、口径、位置及び勾配				
	① 材質、口径	・ビニル管(VP)	目視	合格 不合格	
		・耐火二層管(VP)	目視	合格 不合格	
	② 位置	メジャー等による測定(施工図との整合)		合格 不合格	
	③ 勾配	勾配計による測定(施工計画書との整合)		合格 不合格	
		～65φ → 1/50以上 75φ、100φ → 1/100以上			
4	管の支持間隔支持固定及び振れ止め支持方法				
	① 支持固定方法	・横走り管		吊り金物及び形鋼振れ止め支持の確認 (施工計画書との整合)	合格 不合格
		・立て管		形鋼振れ止め支持及び固定の確認 (施工計画書との整合)	合格 不合格
		② 支持間隔			
	・横走り管(支持)		メジャー等による測定(施工計画書との整合)	合格 不合格	
			～80φ → 1.0m以下		
	・〃 (振れ止め)		25φ～40φ → 6.0m以下	合格 不合格	
			50φ～100φ → 8.0m以下		
	・立て管(振れ止め)		各階1ヶ所以上	合格 不合格	
	5	通気管の取り出し位置及び接続高さ			
取出し位置の確認		目視(施工図との整合)		合格 不合格	
取出し角度の確認		排水横枝管等より垂直ないし45° 以内		合格 不合格	
6	防火区画貫通部の処理				
	耐火二層管施工状況	継手目地部の隙間の確認(施工計画書)		合格 不合格	
	貫通部の穴埋め状況	モルタル穴埋めされているか		合格 不合格	
7	防水層貫通部の処理				
	貫通部の処理状況	防水処理がおこなわれているか(施工計画書)		合格 不合格	
8	間接排水の排水口空間				
	排水口空間の確認	機器のあふれ縁より排水管径の2倍以上 (飲用受水槽の場合150mm以上)		合格 不合格	
9	伸縮継手、満水継手				
	満水継手の確認	各階毎に設置されているか(施工図)		合格 不合格	
	伸縮継手の確認	管伸縮に考慮した位置の確認(施工図他) ・躯体貫通部または貫通部付近		合格 不合格	
10	試験				
	満水試験	30分以上(施工計画書)		合格 不合格	
	写真撮影	日時等がわかる黒板がはいつているか		合格 不合格	

電気設備工事(配管・配線)

区 分		記 載 事 項	確 認	
施 工 計 画	一般事項※	適用範囲、適用図書、関係法規、参考図書、工事打合簿等		
	工事概要	工事番号、工事名、工事場所、発注者、請負者等		
	工程表※	関連工事の施工時期、施工図の作成時期、関連工事との調整、工期、施工時期(準備・機材搬出入・施工・清掃・養生・工程内検査)、受電時期、試運転調整時期、各種検査時期等		
	品	現場組織※	施工業者(主任技術者・担当者)名、作業の管理組織、作業主任者、技術者(技能士、施工管理技術者等)、消防設備士等	
		機材	電線類(電線・ケーブル類、圧着端子類)の規格、使用区分 電線保護物類(配管及び付属品、プルボックス、金属ダクト、ケーブルラック、防火区画等の貫通部に用いる材料)の規格、使用区分 機材の品質確認方法	
	質	機材の試験	防火区画等の貫通部に用いる材料の試験成績書又は性能評価証書 バスダクト及び付属品、ケーブルラックの試験成績書 ハンドホール及び鉄蓋の試験成績書	
		施工	接続方法、支持方法及び間隔、埋設配管・隠蔽配管・露出配管、貫通部の処理	
	計 画	施工の立会い	立会い項目、監督員の立会い時期及び場所 (電線類相互の接続及び端末処理、接続部の絶縁処理、金属管・ケーブルラック等の敷設、防火区画貫通部の耐火処理及び外壁貫通部の防水処理、電柱の建柱位置及び建柱、地中電線路の経路及び敷設)	
		施工の試験	試験時期、試験項目及び方法、合否判定基準(管理値)、試験成績書(絶縁抵抗試験、絶縁耐力試験、極性試験、動力設備の試験、電圧確認等) 計測機器及び校正証明書 防火区画貫通の耐火処理工法の耐火性能証明	
		検査 報告	材料・機材の受入検査・施工管理検査の方法、各検査責任者と合否判定基準、監督員検査の方法(時期・項目) 材料搬入・施工報告書の項目・内容、試験成績書(機材、施工)	
画 書	安全衛生対策	地下埋設物損傷防止対策、重機事故防止対策、墜落・転倒事故防止対策、掘削深度による土止め計画、酸素欠乏症等防止対策		
	工法(施工要領)	材料等の運搬方法・保管方法・養生方法・管理方法(盗難防止対策等) 電線の接続・絶縁処理・電線と機器端子との接続方法、電線の色別 低圧配線・弱電配線・高圧配線と他の配線・管等との離隔距離・方法 地中電線相互及び地中電線と地中弱電流電線等との離隔距離・方法 電線等の防火区画等の貫通方法、延焼防止処理を要する床貫通方法 管路の外壁貫方法及び防水処理方法 耐震施工場所及び方法 電線管類の敷設方法(隠蔽・露出配管、曲げ半径・曲げ角度、支持間隔、コンクリート埋設配管の敷設方法、接続方法、ボンディング等) ライティングダクト・金属線ぴ等の敷設方法(支持方法及び間隔、接続方法、ボンディング等) ケーブル配線の敷設方法(曲げ半径・行先表示、ケーブルラック・配管・二重天井内・二重床内等の配線方法等) ケーブルラックの敷設方法(支持方法及び間隔、接続方法、ボンディング等) 架空線の敷設方法及び高さ、電柱の建柱方法、ケーブルのちょう架方法 地中配管・ハンドホール及びケーブルの敷設方法、表示札・埋設標		
施 工 図 等	配管配線図 (工程表に沿って随時提出)	設計図書等との照合 機材、配管、配線等の各種寸法及び基準芯からの位置等の確認 建築及び機械設備等関連工事の内容及び取合いの確認 コンクリート埋設配管の敷設ルートやボックスの取付け位置の確認		

※の項目については総合施工計画書に記載の場合、省略可

配管・配線 自主検査表		工区	階
合成樹脂管配線 自主検査		検査日	検査者
No.	検査項目	可否の判断基準	可否の判定
			不合格時の処置
1	隠蔽配管の敷設		
	① 敷設ルート	施工図による	合格 不合格
	② 位置ボックス及びジョイントボックス	造営材等に取付ける、点検できない場所に施設してはならない	合格 不合格
	③ 一区間の曲げ箇所数及び曲げ角度の計	4箇所以下、270度を超えない	合格 不合格
	④ 管の曲げ半径	管内径の6倍以上、90度を超えない	合格 不合格
	⑤ 管の支持	サドル、クランプ、ハンガ、合成樹脂製バンド等	合格 不合格
	⑥ 軽量間仕切内の支持	バンド線、合成樹脂製バンド、専用支持用具等	合格 不合格
	⑦ 配管の支持間隔	1.5m以下	合格 不合格
	⑧ 接続点付近での支持	管相互の接続点の両側、管とボックス等の接続点及び管端に近い箇所にて固定する	合格 不合格
2	コンクリート埋込配管の敷設		
	① 敷設ルート	施工図による	合格 不合格
	② 位置ボックス及びジョイントボックス	造営材等に取付ける、点検できない場所に施設してはならない	合格 不合格
	③ 一区間の曲げ箇所数及び曲げ角度の計	4箇所以下、270度を超えない	合格 不合格
	④ 管の曲げ半径	管内径の6倍以上、90度を超えない	合格 不合格
	⑤ 管の支持	バンド線、専用支持用具等	合格 不合格
	⑥ 配管の支持間隔	1m以下、曲り部分は0.5m以内	合格 不合格
	⑦ 接続点付近での支持	管相互の接続点の両側、管とボックス等の接続点から0.3m程度	合格 不合格
	⑧ 一般事項		
	・ダブル配筋部の配管	ボックス付近を除きダブル配筋の間に入れる	合格 不合格
	・床配筋又は壁配筋と平行する配管の間隔	配筋から30mm以上	合格 不合格
	・管相互の間隔	30mm以上	合格 不合格
	・柱はりの主筋との間隔	梁面より100mm以上	合格 不合格
	⑨ 柱及び梁廻りの配管		
	・梁の横断配管	フープ間に1本	合格 不合格
	・壁付きでない梁の横断箇所	柱から梁せい以内は避ける	合格 不合格
	⑩ 柱への配管		
	・鉛直方向の配管	柱内鉛直には配管しない	合格 不合格
	・直交方向の配管	柱に横断貫通配管しない	合格 不合格
	・スイッチボックス等の配置	柱躯体へのスイッチボックス等は設けない	合格 不合格
	⑪ 梁への配管		
	・材軸方向の配管	材軸方向の配管はしない	合格 不合格
	・材軸と直交方向の配管	柱面より500mm以内の範囲に配管は設けない	合格 不合格
		梁主筋の内側に通し、主筋との開きを確保する	合格 不合格
		梁主筋と直角に通す(横走りの禁止)	合格 不合格
		配管相互の中心間隔は、あばら筋間隔以上とする	合格 不合格
	・鉛直方向の配管	鉛直方向に貫通しない	合格 不合格
	・スイッチボックス等の配置	梁躯体へのスイッチボックス等は設けない	合格 不合格
	⑫ 壁への配管		
	・外壁及び耐震壁の配管	PF16以下、配管ピッチは500mm以上	合格 不合格
	・耐震スリット部の配管	耐震スリット部に貫通配管しない	合格 不合格
	・横走り配管	1m以内	合格 不合格
	・一般壁の配管	中心間隔は、壁縦筋間隔以上	合格 不合格
	・その他	蛇行配管は行わない、縦筋に添わせない	合格 不合格
	⑬ 床版への配管		
	・梁面からの離隔	500mm以内に1.0mを越える配管は設けない	合格 不合格
	・配管どうしの交差	鉄筋交差部では行わない	合格 不合格
	・配管相互の中心間隔	70mm以上	合格 不合格
	・平行配管	相互の間隔が300mm以内は2本まで	合格 不合格
	・その他	蛇行配管は行わない	合格 不合格
	⑭ PF管のつぶれ防止		合格 不合格
	⑮ 立上り部の養生		合格 不合格

配管・配線 自主検査表		工区	階
合成樹脂管配線 自主検査		検査日	検査者
No.	検査項目	可否の判断基準	可否の判定
			不合格時の処置
3	露出配管の敷設		
	① 敷設ルート	施工図による	合格 不合格
	② 位置ボックス及びジョイントボックス	造営材等に取付ける、点検できない場所に施設してはならない	合格 不合格
	③ 一区間の曲げ箇所数及び曲げ角度の計	4箇所以下、270度を超えない	合格 不合格
	④ 管の曲げ半径	管内径の6倍以上、90度を超えない	合格 不合格
	⑤ 管の支持	サドル、クランプ、ハンガ等	合格 不合格
	⑥ 配管の支持間隔	1m以下	合格 不合格
	⑧ 接続点付近での支持	管相互の接続点の両側、管とボックス等の接続点及び管端に近い箇所固定する	合格 不合格
	⑨ 管の防水処理	雨水侵入防止処理、管端を下向きに曲げる	合格 不合格
4	管の接続		
	① 配管相互の接続	カップリングの接続状況	合格 不合格
	② ボックス等との接続	コネクタの接続状況	合格 不合格
	③ 金属管等との接続	コンビネーションカップリングの接続状況	合格 不合格
5	配管の養生及び清掃		
	① 管端の養生	キャップ取付け、テープ巻き等	合格 不合格
	② 管路の清掃、導通確認	型枠取外し後及び通線前	合格 不合格
6	位置ボックス及びジョイントボックス		
	① 取付け位置及び高さ	施工図による	合格 不合格
	② 余分な穴あけの処理		合格 不合格
	③ 隠ぺい部分のボックス固定		合格 不合格
	④ 軽量鉄骨部分のボックス固定		合格 不合格
	⑤ 配管との接続		合格 不合格
	⑥ 結露防止		合格 不合格
	⑦ 内部養生		合格 不合格
	⑧ 絶縁セパレータ	通信・情報設備の配線と共有する場合	合格 不合格
7	プルボックス		
	① 支持方法	スラブ等の構造体につりボルト等で取付ける	合格 不合格
	② 支持点数	4箇所以上	合格 不合格
	・長辺300mm以下	2箇所	合格 不合格
	・長辺200mm以下	1箇所	合格 不合格
	③ 支持材	9mm以上のつりボルト、平座金及びナット	合格 不合格
	④ 電線の損傷防止	内部突起物への措置	合格 不合格
	⑤ 絶縁セパレータ	通信・情報設備の配線と共有する場合	合格 不合格
8	通線		
	① 電線の引入れ	電線相互のよじれ、被覆の損傷の有無	合格 不合格
	② 垂直管路内の支持間隔	〇〇m以下	合格 不合格
	③ 回路種別の表示	プルボックス内等	合格 不合格